

(日々雑感 51)



何か落ち着かないのです。何かそわそわして、今までとは違った不安のような、ざわめきのような。掴もうとしてつかめない、捉えようとしてとらえられない苛立ちのようなものを感じ始めているのです。

なんなんだ、これは？今まで久しく感じたことがない感情。

今日、新しい仲間を加えて、さるホテルのロビーで話をした後、その帰り道で、つらつら考えてみたのですが、いまいわかりませんでした。

しかし、仮寝の宿に帰って、卓上カレンダーの書き込みスケジュールを見たとき、それがわかりました。

「期待」あるいは「期待感」でした。

日増しに人と会う機会が増えている。そうして、会うたびに話がかみ合うようになっている。もちろん、その場をセッティングしてくださるパートナーさんの手腕によるところが大なのですが、その中で、僕らが何かをすることに対してそこはかとない「期待」が寄せられ始めているのが感じられたのです。

そんなことはぼくとしてはもう23年間もなかったとこでした。どちらかというとお邪魔虫か、せいぜい、いてもいなくても大差ない存在として扱われ続けることに慣れ切ったじぶんには、それが肌身にそぐわない違和感としてしか感じられずに、捉えどころがなくて、あるいは収まりどころがなくて落ち着かなくなっていたのではないか？

それと同時に、自分たちの計画が、はたまた自分たちの準備の仕事が、まだまだ具体性や緻密さを欠き、たんなる高揚感もどきの「ムード」以外の何物でもないレベルなのを考えると、せっかく寄せていただき始めているらしい、その「期待」や「期待感」の高まりに、未だ十分に応えるだけの裏付けがないことにも落ち着きのなさや不安感を感じているのではなからうか？とも思い当たりました。

ここは、じっくり腰を据えて考えないといけない大切なポイントだと痛感いたしました。しかし、一方で彼の大先輩から

「とにかく始めなさい。まずは何かに手を出しなさい。あとは歩きながら考えればいいから。とにもかくにもまずは、動き始めることです」

という意味の言葉をいただき、それも大切なことだという思いも強いのです。

それを連立方程式風に総合すると「まずは一歩踏み出して、じっくり考えながら、歩き続ける」となります。

これまた昨日同様「至難の業」の部類に属するものです。

しかし、その「至難の技」をやらないことには、競争相手が多すぎてその先を勝ち抜くことができません。

「ほぼ日」どころか、結構大変な毎日です。ただ、それが楽しくもあるような気がしています。

少なくとも「嫌い」ではないような気はしています。